

# 二〇二一年 秋号

## 海禅寺新聞



Vol.31

### 『海禅寺新聞』第31号

9月に入り、すっかり秋らしく過ごしやすい気候になって参りました。スーパーマーケットに食料品の買い物に出かけると、店先には秋の果物が並び始めました。まだまだ高値の物が多いですが、もう少しすると求めやすい秋の味覚も出てくることでしょう。楽しみですね。

ところで私副住職は、平日の朝は毎日、海禅寺のお隣、認定こども園 芙蓉園の園児さん用お迎えバスを運転しています。今年のコースは上田の町中を回って、最後に太郎山の麓である山口地域を運行しています。この地域には果樹農家さんが多く、主にリンゴを栽培されています。毎日同じ時刻にリンゴ果樹畑沿いの道を運転していると、りんごの生育過程がよくわかり、その成長の姿に何とも言えない「癒やし」を感じています。春、一面に咲いたリンゴの白い花が小さな実を結び、それが日々少しずつ大きく育っていきます。そしてここ最近、みるみる赤みを帯びてきました。リンゴ園の真ん中を走り抜ける道にさしかかると、言葉話し始めた2歳児のお子さんは「りんご！りんご！」と何度も連呼し、それと対照的にいつもは賑やかな大きなお子さん達は、刻々と姿を変えていくリンゴの不思議さに一瞬言葉を失い、静かに見入っています。



アメリカの作家であり海洋生物学者であったレイチェル・カーソンがその著作に残した『センス・オブ・ワンダー』という言葉があります。これは『神秘さや不思議さに目を見張る感性』という意味です。その作品には、こう書かれています。

「子どもたちの世界は、いつも生き生きとして新鮮で美しく、驚きと感激にみちあふれています。残念なことに、わたしたちの多くは大人になるまえに澄みきった洞察力や、美しいもの、畏敬すべきものへの直感力をにぶらせ、あるときはまったく失ってしまします。もしもわたしが、すべての子どもの成長を見守る善良な妖精に話しかける力をもっているとしたら、世界中の子どもに、生涯消えることのない“センス・オブ・ワンダー” 神秘さや不思議さに目を見はる感性”を授けてほしいと頼むでしょう。」

社会全体が感染症の猛威と対峙する中で、楽しみにしていた旅行の予定を変更したり、外出を控えて自宅に長く留まることで鬱々としてしまう時があるかもしれません。しかし人間社会が直面している不安の渦をよそに、自然界に目を向けると季節はいつものように夏から秋になり、自然は様々な恵みを与えてくれています。

『「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではない。』とレイチェル・カーソンは言います。私たち大人も、自然の営みに改めて出会い直し、子供のように素直な感性を開くとき、言葉にならない豊かな気付きと救いが心の中に芽生えてくるのかもしれないかもしれません。気持ちのよい秋空の下、ぜひテレビを消して、身近な自然を感じに近所を散策してみてください。

### 『生きる力 vol.106』送付

「生きる力 vol.106」をお届けします。今回の特集は『「生きる力」とお大師さま』です。真言宗智山派で編集刊行しているこの冊子ですが、コロナ禍中にあつてこの数号、「祈る」ことをテーマにした内容が多いように感じます。思うようにならないことに直面したとき、私たちは「祈り」という行いをもってその一大事と向き合ってきました。本書を通じて、ぜひ仏教の伝統の中にある祈りの価値を再発見していただけたら幸いです。

### 秋彼岸会 中日法要のご案内

恒例の秋彼岸会法要を海禅寺本堂にてお勤めいたします。どうぞお出かけください。(申込不要)

日程：令和3年9月23日(木)  
時間：受付 午前10時～  
法要 午前10時半～

※お彼岸中日の午前中は、本堂前でお焼香ができるよう準備をいたします。

※毎回、有意義な懇親の場となっている法要終了後の茶話会ですが、今回も感染症に配慮して中止します。

※彼岸会法要の供養塔婆をご希望の方は、18日(土) 夕刻までに電話またはファックスで、寺にお申し込みください。

(供養塔婆料 一基 3000円)  
※境内墓地をお持ちの方は、お寺においでにならなくとも供養塔婆を墓前に手向けさせていただけます。

ご希望の方は、供養塔婆料を添えてお申し出下さい。

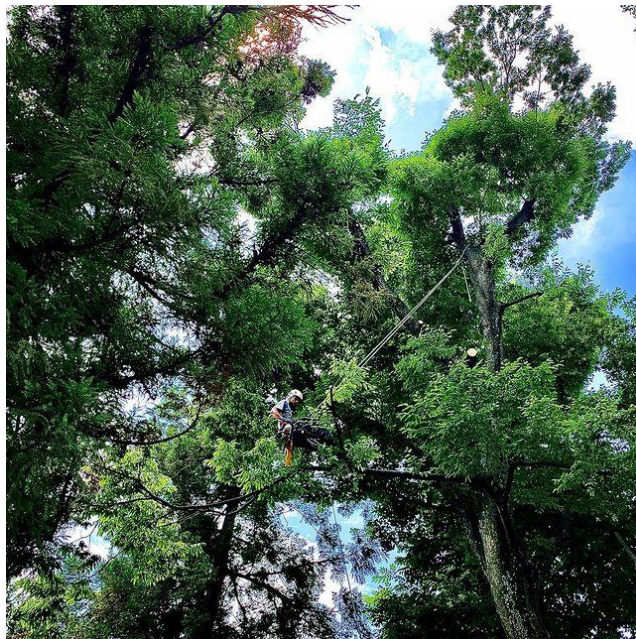
電話：0268-22-2972  
Fax：0268-26-1146



### 境内墓地 立木整備

昨年に引き続き、境内墓地に立つ樹木の枝払い作業を実施しました。今回は特に西隣の呈蓮寺さんとの境にある、堀沿いの木々の枝を剪定しました。付近に墓地のある皆様の中には、これまで時期によっては杉葉などの落枝でお困りのこともあったのではないのでしょうか。これでだいぶ解消されることと思います。

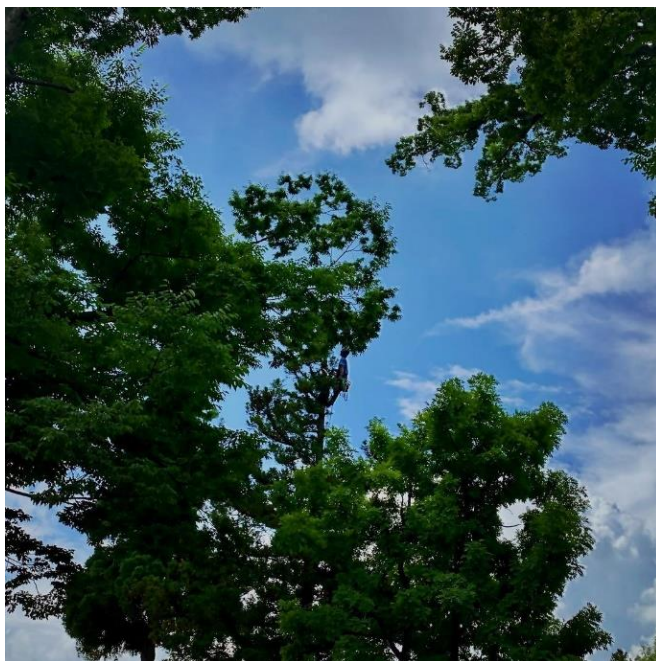
一般的な植木屋さんでは対応が難しい高所での樹木特殊伐採を、今回も大町市に事務所を構えるルーツ・ツリー・サービズさんにお願いました。ロッククライミング



グで使うような特殊な器具を用い行う高所作業、これはイギリスが発祥の『アーボリスト』(Arborist)という職業名の専門的な仕事です。これは日本語では「樹護士」と訳され、ひとことでは「樹木のメンテナンスをする職業です。植木職人との違いは、背丈の低い木々ではなく、主に巨木や大木を対象にし、そのための高所作業をする特殊技術を有していることにあります。



技術と道具の研究に余念のないところは、消防士や山岳救助隊などにも似ており、その仕事ぶりはまるでショーを見ているようでした。



樹木整美・伐採工事  
**ルーツ・ツリー・サービス**  
Roootes Tree Service

長野県大町市 平 8000 Tel.0261-85-7656

また単に伐採するだけでなく、樹木の種類や生態にも精通しており、剪定と合わせて木々のケアをする技能も備えています。本場イギリスでは『ツリー・サージェリー』(Tree Surgery)「樹木医」という言葉でも知られています。今月中には参道の枯れかけた大杉も安全のため伐採していただく予定です。興味がおありの方はどうぞお尋ねください。

### 花岡塗 座卓奉納

上田伝統の塗り技法『花岡塗』(はなおかぬり)をご存じでしょうか? 江戸の後期、上田藩に仕えていた花岡半作という鞍師が、独特な漆の重ね塗り技術を創意したのが始まりと言われています。これは全国的にも珍しい大変手間のかかる技法で、黒漆を塗った上に色漆を重ね塗り、さらに研ぎ出して文様を出していくものです。愛刀家の間で珍重されてきましたが、明治維新廃藩により一度は途絶えてしまいました。

それを上田の塗り職人、小林里一郎氏が再興し、以来親子三代『ぬしや小林』(昭和二年創業・上田市中央西二木町)の屋号で今に花岡塗の職人技を伝えていきます。今回、花岡塗技法を受け継ぐ三代目、小林健二氏とご縁があり、先代、泰夫氏制作の座卓を補修し、海禅寺にご奉納いただきました。

この机には「六文銭」が2つ、そして四隅に真田氏が替紋として使用していた家紋「結び雁金」が塗り施されています。また金箔と黄・緑・赤・茶・黒の漆の文様が美しく浮き上がる大変に素晴らしい逸品です。



花岡塗の説明をする三代目 小林健二氏

小林氏は、漆製品は実際に使ってこそ価値があると言います。寺宝として大切にしつつ、できるだけご法事等でご参拝の皆様

に見ていただける用途を検討しています。



海禅寺には先代住職が晋山の折、ぬしや初代である小林里一郎氏が奉納した花岡塗の経机があります。今回その作品と始めて対面した健二氏が、思いを込めて磨き直していただきました。

別名、『真田塗』とも言われる花岡塗。

輪島塗や木曾塗と並ぶ高級な塗り物として評価され、今でも上田市内の旧家では数多く残されているそうです。上田が誇る花岡塗は、その素晴らしさと裏腹に若い世代の中には知らない方々もおられるのではないのでしょうか。これを機会にぜひご注目ください。

### 第37回 人形供養会



毎年11月の勤労感謝の日に行っている人形供養会を今年も勤修いたします。2年前から人形をお焚き上げする供

養方法から、環境等に配慮し、修験道の秘法・柴燈護摩供によつて懇ろにお人形の供養をお勤めしています。

檀徒の皆さまにおかれましても、ぜひご参拝ください。供養の依頼をする場合を除いて、特別なご志納は不要です。どうぞお参りいただき、お人形に託す思いや、物を大切にすることについて考える契機にいただければ幸いです。

日程… 令和3年11月23日(火・祝日)  
時間… 「受付」午前9時半〜  
「雅楽奉納演奏」午前10時40分〜  
「人形供養法要」午前11時〜

### 【人形供養のお申込みについて】

供養料に決まりはありませんが、お人形一体あたり1000円を目安にお願いをしております。数が多い場合は、ご無理のない範囲でご志納下さい。なお、現在は特別なご事情を除いてぬいぐるみの供養はお受けしておりません。

また供養の事前受付もしております。お預かりしたお人形は寺で供養会当日まで大切に保管をさせていただきます。



前号の海禅寺新聞で話題にしました参道土塀の増設工事と永代供養墓の新設工事が順調に進んでいます。海禅寺においての際は、ぜひ進捗状況にご注目ください。またその際は、工事車両が常時出入りしておりますので、十分にお気をつけください。

さて、季節は秋へと移ろっていますが、感染症とのお付き合いはまだまだ続きそうです。巷ではワクチン接種に関する話題があれこれ語られています。ワクチンを推奨する意見がある一方でワクチンを危険視する声も上がっています。いずれの主張も意見を発する方の事情がそもそも違うのにも関わらず、お互いの考えを否定し合っている点が気になります。

事情は人それぞれ。お互いの事情に寛容であることは、ワクチン接種を推奨する人にも、それを拒む人にも等しく大事なことだと思っております。不安感や皆同じ。寛容な心で事態の通過を待ちましょう。